

GUEST COMMENT



●ゲストインタビュー
ダンカン
(タレント)

「生まれ育ったこの岩瀬地区が大好きだという美穂代表、陽司社長ご兄妹。そんなお二人が手掛けるグループホームでは日常の生活支援はもちろん、地域や近くの海岸のゴミ拾いなどの美化運動にも積極的に参加しているとのこと。岩瀬の地域がもっともっと誰もが暮らしやすい、素敵な場所になればいいですね！ 今後とも応援していますよ！」



人々のいいねの追求
合同会社 グループホームいいね
株式会社 IINE (いいね)

富山県富山市高島町 2丁目1番19号 ル・オマージュ 106
【グループホームいいね岩瀬】
富山県富山市岩瀬町土場町 462番地3
【グループホームいいね幸町】
富山県富山市岩瀬幸町 513

@iine_toyama @0FluvJH9x9nuoLQ

の不安を解消するため、私が代表取締役を務める「IINE」が持つ集合住宅に入居することも可能であるなど、グループホームを出た後の支援も行っているんです。

(美) 当グループホームは最寄り駅から近く、利用者さんが片道110円で市街へ出られるのも魅力のひとつ。近くには就労継続支援施設や生活介護施設があり、日中そちらへ通所される方がほとんどです。利用料金は年金ももちろんありますが、就労された給与から支払いをしているんです。私たちはこういった就労についての相談やサポートも随時行い、利用者さんの心のケアにも努めているんです。

——利用者さんにとって、とてもいい環境を提供されているんですね。大井社長は未経験でこの業界入られたと伺いましたが、始められていかがですか。

(陽) よく「つらいんじゃないか？」と言われますが、全くそんなことはありません。事業を開始し、利用者さんをお引き受けした以上、全うする必要がある。障がいには知的・精神・発達・身体があり、それぞれの障がいに合わせた対応やサポートをすることが大切。どんな障がいを持っている人でも地域に温かく受け入れられ、また助け合える環境がないと地域社会は良くならないと感じています。

(美) 障がいを持つお子さんを抱え、一人で悩み、色々なことを経験したり様々な施設をまわったりされて、ようやく私たちのもとに辿りついた、という利用者さん多い報いであげたいとの想いで、毎日利用者さんに向き合っていますよ。

——その想いが届いているからこそ、スタッフさんも利用者さんも、皆さんが良い

雰囲気でも過ごされているのでしょうか。

(美) これなしには語れないのですが、当グループホームは、施設らしさがなく、アットホーム感をモットーにしています。朝ご飯と夜ご飯を作ってくれるスタッフが21時までの勤務で、夜勤のスタッフと交代し、そのタイムニングで、「今日はこんなことがあったよ」と夜勤のスタッフに申し送りを行い連携をしっかりと取ってくれて、その後私たちにも報告をかかさずしてくれるんです。私たちにとってスタッフもとても大切な存在。ですので、皆には頑張りすぎないでほしいと思っています。

(陽) ある時、無口な利用者さんが何気なく「ありがとう」と言ってくれたのが嬉しかった、と報告してくれたスタッフがいました。私たちは、このような感性を持つスタッフができてくれたことに感謝し、感謝しているんです。

——一つひとつに感謝して、感動する。当たり前のようで難しいですね。最後にありますが、御社の今後の目標を伺います。

(美) 現在は2カ所のグループホームを運営していますが、まだまだ足りないと感じます。目標は岩瀬の地域にグループホームを6つ増やすこと。そのため、今後は人材育成や指導も課題になってきます。人材育成に関しては、しっかりと時間を作ってその場を設けたいと考えていますよ。

(陽) 私たちの最終的な夢は、障がい者への差別や偏見をなくすることです。まだまだ世の中には障がい者に対して少し偏見を抱かれています。障がい者が敬遠されたりと身近に感じられていないことが多くある、歯がゆい思いをしているんです。私たちがもっと発信していかなければ、と使命感を抱いています。

家族のようなぬくもりで生活を支援
“いいね”に溢れたグループホーム



(同) グループホームいいね 代表
大井 美穂



(株) IINE (いいね) 代表取締役
大井 陽司

富山市内で空き家を利用した障がい福祉事業所を運営する「グループホームいいね」。妹である同社の大井美穂代表と、兄であり不動産賃貸などを手掛ける「IINE」の大井陽司社長は、ここ富山市岩瀬で生まれ育った。同事業所では知的・精神などの障がいを持つ人を対象に自立を目指した共同生活を支援。少人数制で家族のようなアットホームな環境を提供している。本日は同事業所をダンカン氏が訪問。お二人の地域に対する愛情や事業への情熱に迫った。

——本日は「グループホームいいね岩瀬」さんにお邪魔しました。明るくて素敵な内装ですね！

(美) ありがとうございます。こちらの建物をはじめ、私たちのグループホームは地域の空き家を再利用しているんですよ。ここ富山県はもと江戸時代に蝦夷地と大坂を結ぶ商業航路「北前船」の寄港地であったこともあり、商売で財を成した富豪が多く、当時のお屋敷が今でもたくさん残っています。しかし岩瀬地区は富山市の中で最も少子高齢化が進んでいて、家の守り手が年々増え続けている現状があるんです。

(陽) また、ここ富山には障がいを持つ方が2万人以上住んでおり、知的障がい者だけでも約3千人います。その中でもグループホームやその他施設に入居している方は約750人。全体の25%に過ぎません。私たちの弟は軽度の知的障がいがあるのですが、県内に弟のような障がい者を支援する

グループホームが圧倒的に不足していると感じたのです。普通の会社員ながら、「地元のために何かをしたい」と思っていた私は、福祉業界未経験ではありましたが、この業界で長年経験を積んだ妹と一緒に古民家を活用した「グループホームいいね岩瀬」を2020年3月に開設したのです。

——ご立派です。障がい福祉のことはもちろん、地域のためにもこの事業を始められたんですね。普段こちらではどのような活動をされているのですか。

(陽) 当グループホームでは共同生活を通じて、利用者さんの自立に向けたサポートを行っています。入居者は最大4名と少人数なので、アットホームな雰囲気が特徴です。岩瀬はお祭りが非常に盛んな地域で、「けんか山車」で知られる岩瀬曳山車祭をはじめ様々な祭りがあります。こういった行事に参加することで社会とのつながりも持つことができると思っています。また、入居者さんが一人暮らしをする際

地域に“いいね”を発信していく

- ▼「グループホームいいね岩瀬」と「グループホームいいね幸町」の2つの障がい福祉グループホームを運営している妹・美穂代表と、グループホームと不動産賃貸を手掛ける「IINE」の兄・陽司社長。地元富山市岩瀬に根ざし地域の活性化につながる活動を、と空き家の活用のみならず、利用者の方々と定期的に地域の清掃作業を行うなど、地域社会への奉仕活動も行っている。
- ▼同グループホームでは毎日の生活支援に加えて、朝夕の食事も提供している。食事を提供している世話人の方は元料理人。提供される料理は栄養バランスだけでなく味や彩りにもこだわっているのが魅力だ。
- ▼富山市の一部の地域では、障がい者施設の先例がない地域もあり、変化が好まれないこともあるという。『グループホームいいね』では食事風景や地域行事への参加、奉仕活動の様子など、利用者の日常を知ってもらうべく SNS で公開している。障がいをもつ個性と考え、地域で見守ることが出来る環境づくりを目指し、二人は発信者となって福祉事業に邁進する構えだ。

